

## 再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：街路交通施設課

担当課長名：渡邊 浩司

事業名 都市計画道路 東部丘陵線	事業区分 街路	事業主体 城陽市
起終点 自：京都府城陽市富野中ノ芝 至：京都府城陽市奈島池ノ首	延長	4.8km
事業概要 都市計画道路東部丘陵線は、新名神高速道路の側道として城陽市富野中ノ芝の府道山城総合運動公園城陽線を起点とし、城陽市奈島池ノ首の国道307号に接続する全長約4.8kmのまちづくりの骨格を形成する4車線の幹線街路である。また、新名神高速道路の城陽スマートIC（仮称）に接続するインターアクセス道路でもある。		
H28年度事業化	H28年度都市計画決定 (H29年度変更)	H29年度用地着手
H29年度工事着手		
全体事業費	65億円	事業進捗率
計画交通量	10,300～13,100台/日	6%
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 13.9 (残事業) 14.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 51/55億円 事業費：48/52億円 維持管理費：3.1/3.2億円
	総便益 (残事業)/(事業全体) 762/762億円 走行時間短縮便益 699/699億円 走行経費減少便益：52/52億円 交通事故減少便益：11/11億円	基準年 平成29年
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=11～17 (交通量 ±10%) (残事業) 交通量：B/C=12～18 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=13～15 (事業費 ±10%) 事業費：B/C=14～16 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=13～14 (事業期間 ±20%) 事業期間：B/C=14～15 (事業期間 ±20%)		
事業の効果等 ① 地域間連携の強化 ・新名神高速道路、城陽スマートIC（仮称）の整備と相まって、他地域との交流の活性化やICアクセス強化が図られる。 ② 土地利用の促進 ・東部丘陵地の商業系及び物流系の土地利用・企業立地が図られる。 ③ 周辺道路の交通改善 ・周辺生活道路の交通量の減少が見込まれ、交通安全の確保及び生活環境の改善に期待される。 ④ 防災面の強化 ・城陽スマートIC（仮称）のアクセス道路として、災害時における、より迅速な救助・復旧等の対応による防災面の強化が期待される		
関係する地方公共団体等の意見 ・都市計画決定の手続きにおいて、周辺住民との合意形成を図っている。		
事業評価監視委員会の意見 ・事業の継続について異議はなかった。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成29年4月に新名神高速道路（城陽～八幡京田辺間）が開通 ・平成29年8月に城陽スマートIC（仮称）が事業化（連結許可） ・宇治木津線（城陽～木津川）の計画段階評価（平成29年9月に社会資本整備審議会開催）		
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成28年度に事業化 ・用地取得率約7%、工事進捗率約4%、事業進捗率約6%（平成30年3月末時点）		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・引き続き事業を実施し、新名神高速道路の全線開通に合わせた平成35年度の供用を目指す。		
施設の構造や工法の変更等 ・建設発生土の有効活用等によりコスト縮減に努めていく。		

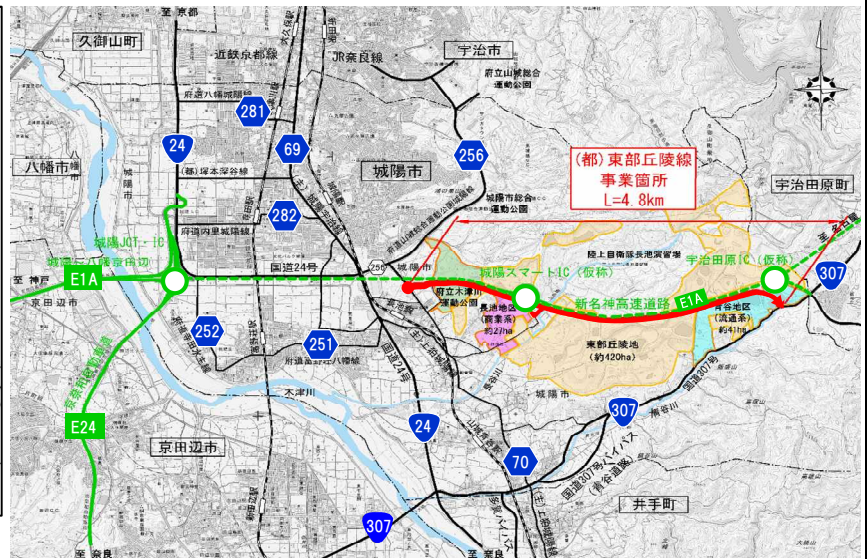
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

・以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。